することの有効性と効率化について報告があった。

一般講演の3件は日本の大学関係者による講演であったが、2件は海外からの留学生による講演であり、また1件は韓国の大学との共同研究、1件はタイの大学および企業との共同研究に関する講演であり、アジアワークショップに相応しい講演であった。北陸先端科学技術大学のグループからは移行現象を利用した高分子表面へのカーボンナノチューブの局在化に関する研究報告、徳島大学のグループ

からは竹/PBS 複合材料の静的および動的特性に及ぼす繊維長の影響について、京都工芸繊維大学のグループからはナノサイズのゴムを添加したポリプロピレン複合材料の力学的特性および結晶化挙動について報告があった。

本セッションが行われた Sakura Room は比較的小さめの部屋で、議論がしやすかったためか、活発な質疑応答、討議をおこなうことができ有意義であった。

AWPP 2010 報告 Poster Presentation, Technical Tour

山 本 祥 正*

ポスターセッションは、学会二日目(12月8日)の17:50-18:50に行われた。ポスター会場は、バンケット会場である Tao Li レストラン前のロビーで開催された。ポスター発表の件数は52件であり、その内訳は『Alloys, Blends & Composites』セッション10件、『Nano Technology』セッション8件、『Structure, Properties & Their Evaluation』セッション7件、『Polymer Modification & Novel Materials』セッション7件、『Rheology & Rheometry』セッション3件、『Extrusion & Injection Moulding』セッション2件、『Fiber Spinning & Film』セッション2件、『Biopolymer & Process Optimization』セッション1件、『Emerging Polymer Processing Technologies』セッション1件、その他11件であった。オールラウンドセッションの直後であったが、どのポスターにも人が集まっており、疲れを微塵も感じさせない活発な議論が行われていた。ポスター賞受賞者はバンケットで発表され、日本側委員長である横井先生より表彰状と記念品が手渡された。図1にバンケットでの授賞式の様子を示す。

テクニカルツアーは、学会三日目(9日)午後および最終日(10日)に開催された。9日はハノイ市郊外にある Honda Vietnam Co., Ltd. の二輪車工場を見学した。ベトナムの主要な交通手段である二輪車を年間200万台製造しているラインでは、手作業で一つ一つの部品を組み立てているところが印象的であった。10日の午前中はハノイ市郊外にある Garco 10 の縫製工場を見学した。Garco 10 のロゴマークに記載されている『May』はベトナム語で『textile』を意味しているとのことであった。日本の大手紳士服販売店にも出荷しているこの工場では、作業員が各パーツを正確且つ迅速に縫い合わせているところが印象的であった。Garco 10 を後にした参加者は、バスに約二時間揺られた後ハロン湾を見学した。ハロン湾は、世界遺産に登録されているベトナムで最も有名な景勝地である。ハロンとは『龍が降りた場所』という意味であり、この地に降

図1 ポスター発表賞授賞者(授賞式にて)

図2 ハロン湾の無数の島

りた龍の親子が宝玉を吹き出し、それが島となって海から侵入してくる外敵を防いだという伝説が命名の由来となっている。図2にハロン湾の絶景を示す。海から突き出た無数の島の間を船でクルージングしながら昼食をとった後、ハロン湾にある鍾乳洞を見学した。自然がつくりだした造形美が感動的であった。見学終了後、バスで空港に向かい、4日間のスケジュールが無事に終了した。

* Yamamoto, Yoshimasa
長岡技術科学大学 工学部 物質・材料系
長岡市上富岡町 1603-1 (〒940-2188)
2011.2.28 受理